

羽田空港を運営する日本空港ビルデングと国際教養大(秋田市、中嶋嶺雄学長)は、同空港を国内の大学の国際化拠点として活用する構想を発表した。アクセスの良さを生かし、国内外の空港利用者に大学に関する情報を発信したり国際シンポジウムを開いたりするスペースを設けることを想定している。

大学は、秋入学への全面移行をポルト(UHHA)。2日目に初会合を開く産官学の有識者会議で、具体的な事業内容や開始時期を話し合

羽田を大学の国際拠点に

構想に参加する大学と大学務省の佐々江賢一郎事務次官や文部科学省の板東久美子高等教育局長、経済同友会の前原金一副代表幹事ら

教育をグローバル化 産官学で有識者会議

UHHAには国際化に力を入れている大学の加盟を募る。すでに国際基督教大、立命館アジア太平洋大などに打診しているという。

中嶋学長は「秋入学は国際化の必須条件だが、教育の中身の改革なども重要。東大の提案に右に倣うという対応だけではない方法で、高等教育のグローバル化を目指したい」と話している。

平成24年3月1日
日経・夕刊